

1. 評価結果概要表

作成日 成 20 年 6 月 10日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4071200549 | | |
| 法人名 | 医療法人 海洋会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ほんわかハウス | | |
| 所在地 | 福岡市西区千里字中原49-1 〒819-0374 (電話) 092-805-5658 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区荒戸3-3-39 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年6月9日 | 評定確定日 | 平成20年7月14日 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療を通じてグループホームの必要性を認識し、認知症の方がその人らしく穏やかに安心して暮らし続けることができるようにと開設されたホームである。自然環境に恵まれた敷地には果実園や菜園があり、季節の花や戸外の空気が楽しめる。また、入居者が楽しみながら、機能低下を防ぐための動きが自然とできるような環境やかかわりが工夫されていたり、入居者のペースを大切に適切なアセスメントに基づくケアの提供に努めている。入居者一人ひとりの思いに寄り添い、生活歴や出来ること、出来そうなことを把握し、入居者一人ひとりに応じた介護計画書の作成と支援がなされている。入居者は、町内の花壇の手入れを地域の方と一緒にするなど、地域に受け入れ支えられ、理念のままに、地域に開かれた場としての交流がみられる。今後、地域ともさらに交流を深められ、地域の認知症ケアの拠点となることが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、家族会や運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で地域交流や運営推進会議への取組みの成果が見られ、サービスの質の向上に活かす取組みがある。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、全職員で確認を行うなどの取組みがある。 |
| 重点項目 | 運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、老人会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員等の参加のもと2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動報告や災害時に地域住民からの協力を得るための働きかけなど、運営推進会議を活かした取組みがある。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 毎月担当職員が、写真を掲載したたよりを送付し、入居者の心身の状況や暮らしぶり等を伝えている。また、家族等の面会時の声かけや家族会などを利用して、家族の意見や思いを引き出すような働きかけがある。出された意見や要望等については、ミーティングでその都度話し合うなどの取組みがある。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に参加の予定であり、近隣の方からの声かけや町内の花壇の手入れなどを町内の方と入居者が一緒に行うなど、地域交流への取組みがある。また、町内の方からの要望に応じ、認知症やグループホームについての勉強会を開催するなど、地域との交流を深めている。 |

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------------|----------|-----------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 12 年 7 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 24 人 常勤 | 20 人 非常勤 | 4 人 常勤換算 22.4 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------------|--|--|
| 建物構造 | 本館 - 木造、別館 - 鉄骨造り | | |
| | 2階建ての～ 1, 2階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|----------------|--------------------|------------|-----|---|
| 家賃(平均月額) | 32,000～41,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(家賃の3ヶ月 円) | 無 | | |
| 保証金の有無(一時金を含む) | 有(円) | 有の場合償却の有無 | 有 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日あたり 1,270 円程度 | | | |

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

| | | | | | |
|------|---------|------|------|----|-------|
| 登録人数 | 25 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 21 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 9 名 | | |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 9 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | | | | |
| 要支援1 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 86 歳 | 最低 | 73 歳 | 最高 | 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | あおいクリニック、別府歯科医院 |
|---------|-----------------|

2. 調査報告(詳細)

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|----------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている | 開設当初からの理念が、地域との結びつきや地域 交流を重視したものであり、職員は常に地域との関係 づくりを意識しながら業務に携わっている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる | 勉強会時には、理念についての説明を行い、職員 への浸透を図っている。また、日常のケアの場面を通 じて気づいたことを理念に照らし合わせながら職員間 で話し合うなど、理念に基づいた実践への取組みがあ る。 | | |
| 2 地域との支え合い | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている | 町内会に参加予定であり、近隣の方からの声かけ や町内の花壇の手入れなどを町内の方と入居者が 一緒に行くなど、地域交流への取組みがある。また、 町内の方からの要望にて地域の方へ認知症やグ ループホームについての勉強会を開催するなど、地 域との交流を深めている。 | | |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる | 前回の評価結果について家族会や運営推進会議 時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善につ いての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。 この過程で地域交流や運営推進会議への取組みの 成果が見られる。今回の受審にあたり、全職員で外 部評価の意義の確認を行うなどの取組みがある。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|------|--|---|---------------------|---|
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町内会長、老人会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員等の参加のもとに2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や災害時に地域住民からの協力を得るための働きかけなど、運営推進会議を活かした取組みがある。 | | |
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ホームの運営等について、行政への相談や助言を受けるなどの取組みがある。地域包括支援センター等へ運営推進会議への参加の声かけを行う等の取組みはあるものの、実質的な参加は少ない。 | ○ | 運営推進会議の会議録の継続的な報告を通じて、行政や地域包括支援センターへの働きかけを行い、更なる連携を期待します。 |
| 7 追加 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 外部研修等に参加し、ミーティングにて受講報告会を行い、職員全体で理解を深めている。また、家族会においても、成年後見人制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の概要や利用手順についての説明を行い、活用に向けての支援を行っている。 | | |
| 4 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 (7) | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月担当職員が、写真を掲載したたよりを送付し、心身の状況や暮らしぶり等を伝えている。また、家族等の面会時の声かけやその時々連絡による報告がなされている。2ヶ月に1度のホームだよりの発行や家族会時にも、入居者の暮らしぶりやホーム行事等のお知らせがある。 | | |
| 9 (8) | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時の声かけ、サービス計画書の説明時や家族会時などを利用して、家族の意見や思いを引き出すような工夫がある。出された意見や要望等に関して、ミーティングでその都度話し合うなどの取組みがある。 | | |
| 10 (9) | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ユニット間の職員の異動等はなく、馴染みの関係が継続されている。新しい職員の採用時には、2週間程度入居者とのコミュニケーションを主にとってもらい、少しずつかわりを持たせるなかでの関係づくりに取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|------------|--|---|-------------------------|--|
| 5 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 追加 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用に関して、年齢や性別等による制限は何ら行われていない。園芸が好きな職員に園芸を行ってもらい、イベント企画が得意な職員にはイベント計画を担当してもらうなど、職員の趣味や特技に配慮した対応がある。 | | |
| 12 | 20 追加 | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 毎年、行政で行われる人権研修に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を実施するなどの人権学習や啓発を通じて、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。 | | |
| 13 (10) | 21 (19) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の情報を掲示して参加を募ったり、職員の経験や能力を考慮した上で外部研修への参加を促すなどの取り組みは行われているが、実質的な参加の回数が少ない。また、月1回の勉強会については、定期的な実施についてはこれからである。 | ○ | さまざまな理由により難しさはありますが、事業所内部での研修計画の立案と実施や外部研修へ多くの職員が参加できるような仕組みなど、内部・外部の研修参加の充実に図られることを期待します。 |
| 14 (11) | 22 (20) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に参加しており、協議会主催での勉強会や同業者との交流、地区のブロック内での意見交換会などを通じて、他の事業所の意見や経験を活かす取り組みがある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|---|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 (12) | 28 (26) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前の管理者による自宅訪問や面談、ホーム見学や日中のみの利用の開始などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居者・家族との話し合いにより、以前の生活環境との差が生じないように、馴染みの物を持ってきてもらうなど、ホームに馴染むための取組みがある。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 (13) | 29 (27) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 料理や園芸など、日常のかかわりの中で自然と学び、共に支えあう関係づくりや入居者の昔話などの会話を通じて、職員自ら学ぶ関係を築く取組みがある。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 (14) | 35 (33) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で入居者の意向や思いを把握し、家族の面会時の声かけや担当職員からのお便りなどを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。把握した内容は、センター方式の様式に記入し、職員間での情報共有や介護計画へ反映させるなどの取組みがある。 | | |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 (15) | 38 (36) | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 入居者との日々のかかわりを通して、入居者の希望の把握に努め、家族の訪問時の声かけなど通して、家族の思いや意向の把握に努めている。毎日のモニタリングや月1度のカフェイン時に他の職員からの情報を把握し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|------------|--|--|-------------------------|---|
| 19 (16) | 39 (37) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新た な計画を作成している | 入居者の状況により、3ヶ月毎及びその時々 の状況に合わせて評価を行い、介護計画 の見直しや再作成を行っている。また、 毎月のカンファレンスにおいて職員間 で全入居者のプランの内容や支援の方針 等について評価・検討する取組みがあ るが、時間的な問題で全入居者に対 しては、行えていないのが実情であ る。 | ○ | 体制的に落ちついて来られたようなので、 月2回のカンファレンス体制を復活させ、 入居者全員に対して、月1回程度は新 鮮な視点で、本人や家族の意向や状 況を確認し、職員間で情報や意見を交 換し合うなどの機会の確保を期待しま す。 |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 (17) | 41 (39) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を活かした協力医療機 関による往診や連携支援、かかりつけ 医への受診、入院時の食事介助など、 入居者の状況や家族の要望に応じて、 柔軟に対応している | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 (18) | 45 (43) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な 医療を受けられるように支援してい る | ホーム協力医より、定期的な往診 や訪問看護師による入居者の状態 把握を行い、入居者の状態に応じた 協力病院への受診の支援がある。ま た、入居者の以前からのかかりつけ 医の受診については、家族とホーム にて支援するなどの取組みがある。 | | |
| 22 (19) | 49 (47) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している | 契約時に重度化や終末期における 対応を説明し、入居者の意志をふま えた上で、家族等の意向を書面で 得ている。状況の変化に伴い、その 都度の家族、主治医、事業所を交 えて協議し方針を共有していく取 組みがある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1 その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 (20) | 52 (50) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない | 職員は、入居者の様子を良く観察しており、入居者 にさりげなく近づき、耳元で声かけしたり、視線を合わ せて笑顔で傾聴するなど、プライバシーに配慮した対 応が見受けられた。 | | |
| 24 (21) | 54 (52) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している | 入居者のその時その時の気持ちを尊重し、決して無 理強いせず、様子を見ながら、食事や入浴などの声 かけを行うなど、入居者のペースにあわせた対応が 見られた。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 (22) | 56 (54) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している | 野菜の下ごしらえや、配膳、下膳、後片付けなど、 入居者一人ひとりができる範囲で協力しながら、入居 者、職員が共に食卓を囲み、ゆったりと和やかな雰 囲気の中で食事を楽しめるような取組みがある。 | | |
| 26 (23) | 59 (57) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している | 午後から夕食後位まで、入居者の状況や希望に応 じて柔軟に対応している。入浴の順番や好みの湯 温、入居者ごとに湯を交換するなど、入浴を楽しめる ように支援している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|--|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 (24) | 61 (59) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている | オルガン演奏や野菜の下ごしらえ、下膳、洗濯物た たみなど、日常的なかかわりの中で入居者のできるこ とや得意なことを把握した上での支援がある。 | | |
| 28 (25) | 63 (61) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している | 日々の散歩やその時々入居者の希望に添っての ドライブや買い物、月に1度の外食など、戸外に出 かける機会を見つけて対応する支援がある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 (26) | 68 (66) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る | 日中は開錠しており、ホーム出入りにセンサーを設 置し、入居者の動きを細かくキャッチし、さりげない声 かけや見守り、入居者と一緒に職員が外出するなど、安 全面に配慮した支援がある。 | | |
| 30 (27) | 73 (71) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている | 年2回の消防署の指導による避難訓練により誘導方 法の確認、消火器の使い方等を学ぶ取り組みがある。 災害時の近隣住民の協力を得るための働きかけはこ れからである。 | ○ | 運営推進会議の場を活用し、地域住民の参加協 力を得ての避難訓練の実施など、非常災害時に地 域の協力が得られるような働きかけを期待しま す。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 (28) | 79 (77) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る | 入居者の希望等を尋ねながらメニューを作成し、法 人内の管理栄養士に定期的に食事メニューのカロ リーや栄養バランスの確認を行うなどの取組みがあ る。また、水分摂取量が少ない入居者へは、頻 繁な声かけを行うなど、水分確保への支援があ る。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 (29) | 83 (81) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム玄関前のベランダには、季節の草花が咲き、 ほっと心ませる空間を醸し出している。リビングは 自然採光を取り入れ、植物が飾られるなど、季節を肌 で感じ、入居者一人ひとりがゆっくりと居心地良く過 すための工夫がある。 | | |
| 33 (30) | 85 (83) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている | 居室には、家具、写真、植物、テレビなど、馴染みの 物や使い慣れたものが持ち込まれており、入居者に とって居心地よく過ごせる居室づくりへの工夫や配慮 がある。 | | |

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号